

火3クラス、水2クラス

授業科目(ナンバリング)	茶道文化IVB (AB402)			担当教員	嶋内麻佐子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
茶道文化IA～IVAの集大成として卒業の茶会を行い、茶道におけるもてなしについての考えを深める。茶会の運営を通して、相手への心遣いや協調性、礼儀作法を学び、今後の社会生活に繋げる。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	茶事の基本を理解し、役割について説明ができる。					茶会レポート	10%
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。					課題・レポート	10%
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。					授業態度	60%
多様性理解力	仲間と協力し、茶事を運営することができる。					卒業の茶事への参加	20%
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業の茶事への参加は20%とし、茶事の準備や当日の取り組む姿勢などから評価する。授業態度については60%とし、点前の稽古や茶会の実施など、授業への積極的な参加から評価する。課題・レポートは10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行う。課題・レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。茶会レポートは10%とし、卒業の茶会終了後の感想や気づきから評価する。							
授業の概要							
各グループで茶会を成功させることを目標とする。茶会を開催するに当たっては、状況に応じて学内だけでなく学外(包括協定を結んでいる波佐見町など)の施設も活用する。また、点前については茶道文化研究所作成の動画も用いながら、炉の濃茶点前や薄茶点前の概要を理解する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400円の諸経費が必要である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流 茶会の流れ』長崎短期大学特色GP関連事業(2007年) 安部 直樹、嶋内 麻佐子、木村 勝彦『大学の教養教育における茶道文化の意義に関する研究』人間社会学部国際観光学科共同研究(2018年) 指定図書：桑田 忠親著『茶道の歴史』講談社(1979年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・茶道文化履修の集大成として「卒業の茶会」を実施するにあたり、4年間共に学んできた学友と力を合わせて茶会に取り組んでほしい。学びの中心にあった「ホスピタリティ精神」や「もてなし」についてもう一度見つめ直し、4年間の思いを込めた茶会を成功させてほしい。 							

火3クラス、水2クラス

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・薄茶点前（炉）見本	薄茶点前（炉）の見本を確認し、概要を理解する。 （嶋内）	薄茶点前の流れと炉の点前の置き合わせを予習・復習する。
2	・濃茶点前（炉）見本	薄茶点前（炉）の見本を確認し、概要を理解する。 （嶋内）	濃茶点前の流れと炉の点前の置き合わせを予習・復習する。
3	・薄茶点前（炉）稽古① ・濃茶点前（炉）稽古①	茶会形式で濃茶点前および薄茶点前（炉）の復習（拝見を含む） （嶋内）	濃茶点前および薄茶点前の流れと炉の点前の置き合わせを予習・復習する。
4	・薄茶点前（炉）稽古② ・濃茶点前（炉）稽古②	茶会形式で濃茶点前および薄茶点前（炉）の復習（拝見を含む）。 （嶋内）	濃茶点前および薄茶点前の流れと炉の点前の置き合わせを予習・復習する。
5	・炭を切る① ・炭点前（炉）復習①	鎮信流の炭の大きさに炭を切る。 炭点前（炉）の復習。 （嶋内）	炭点前の流れと道具の扱い方を予習・復習する。
6	・炭を切る② ・炭点前（炉）復習②	鎮信流の炭の大きさに炭を切る。 炭点前（炉）の復習。 （嶋内）	炭点前の流れと道具の扱い方を予習・復習する。
7	・茶会の役割決め ・班別練習①	茶会での役割を決める。 卒業の茶会に向け、班別に練習を行う。 （嶋内）	参考書『大学の教養教育における茶道文化の意義に関する研究』pp.30～70を読み、予習・復習する。
8	・班別練習②	卒業の茶会に向け、班別に練習を行う。 （嶋内）	参考書『大学の教養教育における茶道文化の意義に関する研究』pp.30～70を読み、予習・復習する。
9	・班別練習③	卒業の茶会に向け、班別に練習を行う。 （嶋内）	参考書『大学の教養教育における茶道文化の意義に関する研究』pp.30～70を読み、予習・復習する。
10	・茶会の準備①	客迎えの準備を学ぶ。 （嶋内）	卒業の茶会の成功を目指し、班別練習に参加する。
11	・茶会の準備②	客迎えの準備を学ぶ。 （嶋内）	卒業の茶会の成功を目指し、班別練習に参加する。
12	・卒業の茶会（本番）	客を招き、卒業の茶事を実施する。 （嶋内）	各役割の動きについて予習・復習をする。
13	・総復習	総復習として、ミニ茶会形式で実践を行う。 （嶋内）	各役割（亭主・半東・接待・水屋・客）の動きについて予習・復習をする。
14	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来松浦家の風習について理解を深める。 （嶋内）	日本の正月について予習・復習する。
15	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄（松芳）先生の遺徳をしる。 （嶋内）	教科書 pp.7～12 を読み、予習・復習する。

木5クラス

授業科目(ナンバリング)	茶道文化IVB (AB402)			担当教員	嶋内麻佐子 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
茶道文化IA～IVAの集大成として卒業の茶会を行い、茶道におけるもてなしについての考えを深める。茶会の運営を通して、相手への心遣いや協調性、礼儀作法を学び、今後の社会生活に繋げる。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	茶事の基本を理解し、役割について説明ができる。				茶会レポート	10%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	60%	
多様性理解力	仲間と協力し、茶事を運営することができる。				卒業の茶事への参加	20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業の茶事への参加は20%とし、茶事の準備や当日の取り組む姿勢などから評価する。授業態度については60%とし、点前の稽古や茶会の実施など、授業への積極的な参加から評価する。課題・レポートは10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行う。課題・レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。茶会レポートは10%とし、卒業の茶会終了後の感想や気づきから評価する。							
授業の概要							
各グループで茶会を成功させることを目標とする。茶会を開催するに当たっては、状況に応じて学内だけでなく学外(包括協定を結んでいる波佐見町など)の施設も活用する。また、点前については茶道文化研究所作成の動画も用いながら、炉の濃茶点前や薄茶点前の概要を理解する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400円の諸経費が必要である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流 茶会の流れ』長崎短期大学特色GP関連事業(2007年) 安部 直樹、嶋内 麻佐子、木村 勝彦『大学の教養教育における茶道文化の意義に関する研究』人間社会学部国際観光学科共同研究(2018年) 指定図書：桑田 忠親著『茶道の歴史』講談社(1979年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・茶道文化履修の集大成として「卒業の茶会」を実施するにあたり、4年間共に学んできた学友と力を合わせて茶会に取り組んでほしい。学びの中心にあった「ホスピタリティ精神」や「もてなし」についてもう一度見つめ直し、4年間の思いを込めた茶会を成功させてほしい。 							

木5クラス

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・薄茶点前（炉）見本	薄茶点前（炉）の見本を確認し、概要を理解する。 （嶋内・柳井）	薄茶点前の流れと炉の点前の置き合わせを予習・復習する。
2	・濃茶点前（炉）見本	薄茶点前（炉）の見本を確認し、概要を理解する。 （嶋内・柳井）	濃茶点前の流れと炉の点前の置き合わせを予習・復習する。
3	・薄茶点前（炉）稽古① ・濃茶点前（炉）稽古①	茶会形式で濃茶点前および薄茶点前（炉）の復習（拝見を含む） （嶋内・柳井）	濃茶点前および薄茶点前の流れと炉の点前の置き合わせを予習・復習する。
4	・薄茶点前（炉）稽古② ・濃茶点前（炉）稽古②	茶会形式で濃茶点前および薄茶点前（炉）の復習（拝見を含む）。 （嶋内・柳井）	濃茶点前および薄茶点前の流れと炉の点前の置き合わせを予習・復習する。
5	・炭を切る① ・炭点前（炉）復習①	鎮信流の炭の大きさに炭を切る。 炭点前（炉）の復習。 （嶋内・柳井）	炭点前の流れと道具の扱い方を予習・復習する。
6	・炭を切る② ・炭点前（炉）復習②	鎮信流の炭の大きさに炭を切る。 炭点前（炉）の復習。 （嶋内・柳井）	炭点前の流れと道具の扱い方を予習・復習する。
7	・茶会の役割決め ・班別練習①	茶会での役割を決める。 卒業の茶会に向け、班別に練習を行う。 （嶋内・柳井）	参考書『大学の教養教育における茶道文化の意義に関する研究』pp.30～70を読み、予習・復習する。
8	・班別練習②	卒業の茶会に向け、班別に練習を行う。 （嶋内・柳井）	参考書『大学の教養教育における茶道文化の意義に関する研究』pp.30～70を読み、予習・復習する。
9	・班別練習③	卒業の茶会に向け、班別に練習を行う。 （嶋内・柳井）	参考書『大学の教養教育における茶道文化の意義に関する研究』pp.30～70を読み、予習・復習する。
10	・茶会の準備①	客迎えの準備を学ぶ。 （嶋内・柳井）	卒業の茶会の成功を目指し、班別練習に参加する。
11	・茶会の準備②	客迎えの準備を学ぶ。 （嶋内・柳井）	卒業の茶会の成功を目指し、班別練習に参加する。
12	・卒業の茶会（本番）	客を招き、卒業の茶事を実施する。 （嶋内・柳井）	各役割の動きについて予習・復習をする。
13	・総復習	総復習として、ミニ茶会形式で実践を行う。 （嶋内・柳井）	各役割（亭主・半東・接待・水屋・客）の動きについて予習・復習をする。
14	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来松浦家の風習について理解を深める。 （嶋内・柳井）	日本の正月について予習・復習する。
15	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄（松芳）先生の遺徳をしる。 （嶋内・柳井）	教科書 pp.7～12 を読み、予習・復習する。